

## 別紙 1

### 令和3年度北海道ジュニアユース大会開催における感染防止策について(改訂版)

- 1 今大会中、会場の函館大学の体育館内に入れるのは、参加選手、参加チームの役員、競技役員と、参加チームの保護者（チームの選手人数と同数まで）とする。
- 2 参加者からは、以下の事項を記載した「健康チェックシート」（別紙2）の提出を求める。
  - （1）氏名、年齢、住所、連絡先 ※個人情報の取扱には十分注意する
  - （2）当日の体温
  - （3）参加前2週間における以下の項目の有無
    - ア 平熱を超える発熱
    - イ 咳、のどの痛みなど風邪の症状
    - ウ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
    - エ 嗅覚や味覚の異常
    - オ 体が重く感じる、疲れやすい等
    - カ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
    - キ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
    - ク 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合
- 3 大会開始2週間以内に本人及びその同居家族が、PCR検査もしくは抗原検査で陽性反応があった場合、感染者及び濃厚接触者は大会に参加できない。
- 4 大会開始2週間以内に、本人及びその同居家族が2（3）のア～オの症状があった場合、原則医療機関を受診し、新型コロナウイルス感染の可能性について確認すること。新型コロナウイルス感染の可能性が医師によって否定されるまでの間、該当選手及びその濃厚接触者となる可能性のある選手は、一時的に大会参加資格を消失する。ただし、次のA・Bの両方の条件を満たしている場合、またはPCR検査の結果陰性となった場合は参加できる。
  - A 感染症状疑い症状の発症後に少なくとも8日が経過している（8日が経過している：発症日を0日として8日間のこと）。
  - B 薬剤を使用していない状態で、解熱後及び症状消失後に少なくとも72時間が経過している。
- 5 バス等でチームが団体行動で大会開催地に向かう場合、集合以降に2（3）ア～オの症状が行動を伴にする者、およびその同居家族に見られた場合、本人と行動を伴にしていたものすべては、症状のある者が医療機関を受診し、新型コロナウイルス感染を否定されるまでの間、大会出場資格を消失する。このような事態が起きた場合には、至急主催者まで連絡すること。なお、新型コロナウイルス感染が否定される前に試合開始時間となった場合は、そのチームは棄権となる。結果を待つために試合開始時間を変更する等の措置はとらない。
- 6 「健康チェックシート」は、大会会場に着いた時点でチーム分をまとめて主催者に提出する。保護者は入館時間に入り口にいる大会役員にそれぞれ提出すること。翌日も会場入りする場合は、2日目当日用のみの提出で構わない。

- 7 大会終了後2週間以内に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合は、函館市および該当市町の保健所と連携をとり適宜対応する。
- 8 会場入り口に消毒液を設置し、手指のアルコール消毒を求める。アルコールにアレルギーがある場合は、石けんを用いた十分な手洗いを求める。入館者には運動時以外のマスクの着用を求める。
- 9 選手とチーム役員の入館時間は1つ前の試合開始（第1試合のチームは開館時間）以降、保護者の入館時間は自チームの試合開始15分前とし、退館時間は選手が試合終了後30分以内、保護者が試合終了後15分以内とする。
- 10 選手とチーム役員は入館後1階観客席に着席すること。保護者は2階キャットウォークの入口側観戦スペースで観戦すること。
- 11 W u pについては、函館大学体育館のキャットウォーク奥側半分を利用すること。体育室が使用できそうな場合は当日連絡する。
- 12 競技ベンチについては2列とし、列毎横の間隔を最低1m以上空けて配置する。オフィシャル席も間隔を空けて配置する。
- 13 前半終了後及び試合終了後、ベンチの消毒を当該チームの責任者に依頼する。その際に使用する用具については、主催者側で用意する。
- 14 更衣室は、隣との十分な距離を確保しながら利用する。また、密を避けるため、特に男子については、簡易な着替えについて観客席での更衣を認める。
- 15 大会開催中は、会場内を随時換気する。
- 16 施設のゴミ箱の利用を禁止し、ゴミの持ち帰りを求める。
- 17 競技中やコイントス時、試合前後の挨拶に際しては、握手やハイタッチ等を禁止する。なお、試合後、選手による相手ベンチへの挨拶も行わないこと。
- 18 競技中における大声での会話、大声や管楽器類を用いた応援（ベンチ、観客席）はしないこと。
- 19 コート内の選手も咳エチケットを極力守ること。
- 20 コート内で倒れた選手には安易に接触しないこと。
- 21 タオルやドリンクの共有はしないこと。
- 22 ドリンクの飲み残しは、各自で適切に処理すること。
- 23 アイスバッグを共用する場合には、直接肌に触れないよう使用すること。
- 24 今後、新型コロナウイルス感染症が拡大し、非常事態宣言が出されるなどの事態となった場合は、主催者の判断で中止とすることもある。本大会が中止となり、J O Cジュニアオリンピックカップが開催されることになった場合、今年度の大会結果をもとに母体チームを決定する。